WA 15
3

調支分作法

枡尾惠林上人著

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』 請求記号 WA15-3

WA 15
3

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』 請求記号 WA15-3

調支分作法

WA 15
3

旧請求記号
賞6-20

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』 請求記号 WA15-3

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号　WA15-3

十無盡院

栂尾
善財院本

依領
地蔵院

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号 WA15-3

国立国会図書館蔵書

調支分作法私

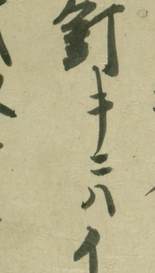
一 亀可用意具足 浄器一枚 竹釘四本
 水雛一 金尺一 浄水カ一 竹鞭二三枚 濾紙
 丁子甘々含香料 中ハイ

於道場若便宜浄處可調之其人数門葉
表授并已入壇ノ未 丁依時受者 首行水着
浄衣之

一 金剛線ヲ以事 當座懸手ノ人数ニ首數含香之

先焼香ニ名香ヲヒネリテ 岳羽枝上焼之
金若ハ竹釘等ノ相具ニテ 表授ニ浄衣之
両ニ調之

次白色ノ糸ヲ取テ長四尺七八寸許リニ
折テ糸ノ气ニ除テ羽枝 竹釘ヲ三ツ
折テ懸之 竹釘必ス五眼三ニ羽枝ヲ陰底
長サ 丁依時之



糸ヲ結始メ法ハテ之 糸ヲ
先ツ左ヘヨリニ結テ懸リ左ヘヨリ
ソノ釘ヨリ八ツヘヨリ一寸許ノ左テ結ツ也
又ソレヨリ八又キテ紙捻ニ貫ヲ
結ハテヲハ刀ニテ弁切之 凡ソツニキル

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号 WA15-3

又ハ紙捻ニテ紙捻ニ黄ウラ煩敷ヒ糸
経ハテヲノヘ刀ニテノ辛切ス凡ミテツニキル
キリ糸ウラトサ細サハ其本撚ノ倍ニ量テ見ニ
五色ノ一文ノテトサニ見合テ紙捻ウ一筋テ
捻テ量テ糸ウ九寸許ヲ見テ
裸ノ寸ノ定ル事糸ノ勘テ定ム
ニ文ノ如リ次リテ糸ノ終始又雄ノ竹針ウ
又キテ糸ノ紙捻ニ此ヲ次糸ノ首ヲ
量ヒ則ち方ヨリ糸カ末ト竹針又打ヒ次糸ノ首ヲ
ヲ引ル方ヨリ取ウ紙捻ノ当ウヲ
ナレニツノ又キテ是ヲノ一本捻ニ量ヒ物ニ付ル方ヨリ
サテ信ウヲ不ル捻ニ撚ニ九ウリウリ紫ニ黄
赤青黒ト次第ニ色ノ如ク同シ紙捻ニ黄又キテ
量ヒ又首ノ如ク白キ糸ノ捻リテ
紙捻ニテ又ノ数キニテ糸ノ本ノ取
テ物ニ結付ル其後ヨル方ノ未ヨリ
白黄赤青黒ト次第ニ礼ヲ取
ムテ末ノ如ク礼ヲ取
ハイラ糸ノ本ヘヤリテ穴ニ任書付ニ入テ

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号 WA15-3

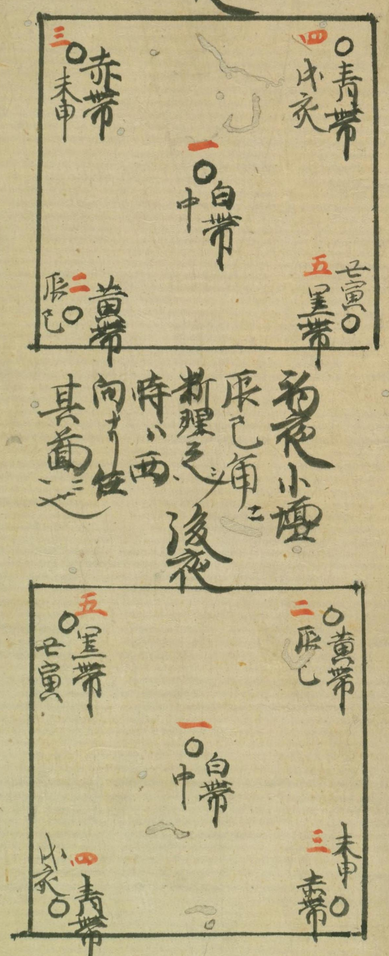
無仍来不用ニ
ケ条 ケウハイシントキヲ次第
ニ下ニテ糸ノ下ヲ生ヒシテヒ
ヲ甚後五重ニ到ノ紙捻ニ
ノ紙捻ノ本ニ一ツヒ合セテ
合セ付キ右ヨリ上ノアケテ
阿闍梨 すこへ糸ヲ残シ
ケレヤニ引ケレヤニ法ヲ信レ人ケウ
ハヤウヤニ上ノ引アレヤニヨリ
寸浮シ右脇ニヨリテケウハウ
ケテ糸ニ一ツ七度引キ
モテ女三通サレヤ甚後糸ニ付ケ紙捻リ
多キテ取ニ先ノ紙捻リ
中ハリ〆梶ニ眞ン〆ヨ
紙捻ノ梶ニ捻ツ甚後白糸ニテ先
本ト次ヒ〆ニ〆ヨウヒキテ
リヨシ無後ノ阿闍梨ニ奉ニ阿闍梨
三右ヤニ法ヲ紙ニ書ヲ壇ノ
脇ノ法ノ

嶺木事

無仍兼仕ニテ又合刻ヲ前ニ用楊枝
木ノ本ヲ切ル綱方ニ若兼仕ヲ事問ヒ
前ニテ閼伽水ヲ汲ニ兼仕ヲ
ヲ結ヒ 若授人先ノ香ヲ
サヲヲ加ニ渡ニ 次白色ノ糸ノ四人ニ

別ニ一ツ閼伽水ヲ汲ミ其ノ傍ニ
仮七 基門一ツ
下花ハ菩提人先ノ香ノ
サテ水ヲ汲ミ
汲ミ
汲テ左右ニ二ツヲ置セ
今其ノ基ニ
基ニ
次白色ノ三ツ四人ニ
普通ノ右ニ
左ニ
次五葉ノ花ヲ其ノ
ニ
納ル一ニ方サトヲ中ノ一葉ノ楊枝細キ
サキヲ少シ
向テ一ヒトスリヲ
不害治術ニ
二葉ノ楊枝ニ押シ置
此四葉ノ前ノ後ロニ二葉ノ楊枝ヲ
ヨリテヲヒネリ白キ糸ヲ
キニ法ニ三ヲ誦ル楊枝ヲ
下ノ如ク小刀ヲ
此疾リテ不ル
俱ニ閼伽ニ
最後ニ員ニ
楊枝ヲ長ケト同ニ揃ニ
七遍ヒニテモ口中
取リ具ニテ二ヲ
閼伽ニ
焼香ニ
閼伽水觀事
閼伽桶二口 脇机 金剛水
着ル其儘
先ツ承仕無合
替水ヲ
二桶汲ミ
受者相具承仕合
閼伽水ヲ十瓶ナラハ二桶ヲ寄テ支壇
瓶ニ若別ニ
初後ノ料ノ水ヲ入ル七只五瓶ナラハ

如此疾りて下取り具にて二ヶ
俱に関係にもそうの内薬にて薫焼香に
最終に員そ〆色の
着手其儘
始めて 先ず承仕無人を替水也 宮初め全
二桶汲そ 受者相具承仕全汲そ
以下承仕許全
前仏水う十瓶ほうの 二桶ともう寄て支壇の
瓶に若別に 初後ノ料ノ水ン入也 只五瓶ほうの
初夜ノ時ノ水う入ます 瓶初後夜に用ル
ゆりノ 瓶に入水ノ事 仰承仕に 支瓶う
全散ノ 打敷一枚 五ノ角に並て
瓶ノ半腹許りに全入そ
茶にて 棚上に員そ 十瓶ほうの 打敷二枚そ
五瓶ノ員そ 支壇ノ瓶五十取そ



初夜小壇
東に角に
打敷そ後
時は西
向より仕
其儘に

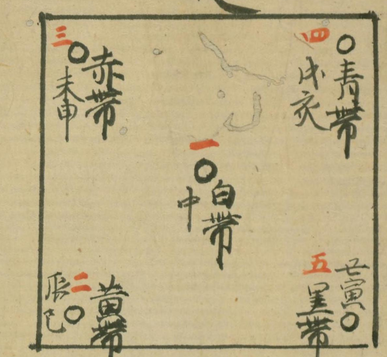
後夜ノ壇
東向て
衆角に打敷
そ仕其儘に

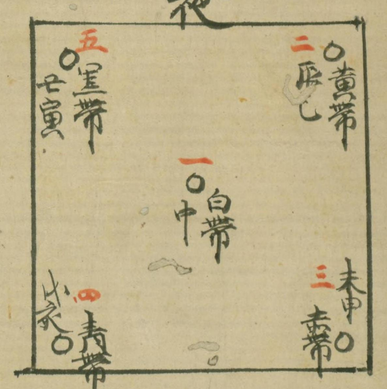
南壇同特に打敷そ一ツ
瓶ノ次第ぬり此うちし 華
荘れ 其仕壇そうは 員た並ぶ
ず仕壇そうの員た並ぶ
帯そ仕此分に
其仕壇そうの初夜ノ儘に

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号 WA15-3

五靴ハ員ニ足ス支壇ノ靴ハ取ラス

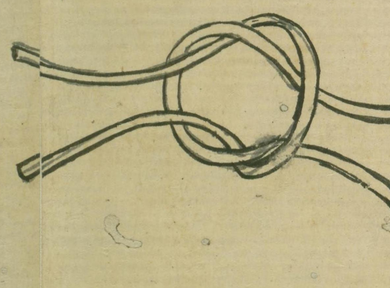
初夜





南壇同特ニ斬理ニ十靴ノ員ニ足ス靴ノ次ヲ以テ此ノ如シ帯ヲ仕ヘ其ノ次ヲ以テ此ノ如シ茨ヲ仟ヘ壇ヲ八足ニ仟ヘ初夜ノ靴ニ於テ茨ヲ用ヒ茨ヲ仟ヘ帯ヲ茨ヒ此ノ如シ此靴ノ後夜ニモ用ヒ茨ヲ仟ヘ帯ヲ茨ヒ此ノ如シ後夜ニ於テ造次ニモ之ヲ持ス

帯茨ヒ撥ノ先ヲ以テ取リ白文彩帛ノ唐六ノ衽ニ二節ノ切ニ一節ノ中ヨリ一節ノ又押折テ九手ニ持ス今之ヲ押折テ左手ニ持ス今之ヲ左手ニ於テ先ノ帛ノ上ニ左手ノ帛ノ口ヨリ押握テ左右ノ帛ヲ左ノ諦ノ左方ニ着タル手ノ方ニ於テ諦ヲ着タル帛ノ支方ノ諦ヨリ取テ右ノ諦ノ中ヨリ上サマヘサシトヲシ引キ通シ其ノ後テ支方ノ口ヨリ上ヒロケテ靴中ニ頭ヲ懸テ之ヲ引キ下ス



国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号 WA15-3

一　青藥等叢事

先白交ノ紙帛ヲ取テ底ニ二寸許ニ切テ
中ヲ破ラシム但シ上下一寸ヲ破リトラヌ
スミテ破ル底ニテ左右ヘ切リ分テ其ノ上下
破ル底ノ底ヨリ又實ノ又青ノ又茶ノ又紙ノ
ヲ如ク白交ノ如ク紙帛ヲ以テ一ツ宛ノ中ヲ一ツ宛ノ帛ヲ破リ
事如此ク

先ニ寸許ニ切ノ中ヲ十紙ノ赤ルトコロヲ
ク青茶ヲ以テ一ツ宛ノ帛ヲ一ツ宛ノ帛ヲ切リ
リノ端ヲ一寸許ニ四方ニ切
リ

[illegible]

底ノ
ココニ青
茶ヲ入ル

如此ノ紙帛十紙ヲ一交若ノ
リ又紙ヲ以テ底ヨリ二寸許ニ切テ
一寸許ニ一節ヲ切リ又若ノ一節ヲ切リ
汉浄紙ヲ方一寸四方ニ十紙ヲ
五切ニ是ヲ中ヲ四隅ニ
實並ニ十紙ヲ
切リ　則紙ヲ
サシ實ニ　其後先ノ又實ノ金ヲ
サシ實ニ　次ニ金ヲ底ニ
次ニ金ヲ底ニ
次ニ銀茶末
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号 WA15-3

サし量ル　次金ウ　厚已ム未申戌亥　已ト

次米二廿ニ四入ル　其後金ウの光ノ暑ヲ倖ト

量ヲ　又銀　去時　疑ニ非ル　頭梁　油火皆　必金ノ入

ル　次五青　流　白檀　丁子　麝金　龍脳　入遠ル

次五茶　赤箭　人参　供奉　石昌蒲　天門冬

次穀　穀　穀　大去ル　小麦　兼ニ　胡麻

已上共後ウ深ク　ニ入ヒヒヲ後中ヨリ取ル

深キ　ニ穀ノ塵ニ不至ル量ク

深キ　ニ穀ノ塵ニ不至ル量ク

其後白キ穀帛ノ底ヨリ　中ニ量キ者　青茶

ウヲ量ル　白糸ニテ　二緯ヒヒヲ下ラスヒヒヲ切

ル　糸ウヨウナル　ノ自性ノ黄赤青黒ト

次ノ一条ク量ル　金附線ノ一緒ト

量ル　飛ノ中ニウトシ入ル　穀帛ノ上ニウ飛ノ帯ノ条ニ住ヲ

飛ノ中ニウトシ入ル　穀帛ノ上ニウ飛ノ帯ノ条ニ住ヲ

（後略）

（後略）

（後略）

高山寺
地蔵院

高山寺十三重塔院第三世惠林上人御自筆
記也右可為祖師之

已上本伝傳授事相之
同相見易以授
当寺地蔵院加護者
全可令書給行乱之

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号 WA15-3

松十三冬弘通協行
歳次壬申天保三年三月廿九日 尾宮
日曜井露同
奉修傳法灌頂
阿闍梨沙門慧受讃之年又一歳

三月六日
記者師大法師資讃之年二十
調支員用此記
又六歳

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号 WA15-3

紙背

昭和四年高山寺カラ出版セラレタル村上素道氏著「明恵上人」傳ニ曰ク、明恵上人血脈ハ次ノ如シ（同書三、八二頁、

高野御室――兼助　和泉アサリ、改源空傳受法四ハ次ノ兼子

行慈　淨覺房、號高雄上人　舟七人

高辨　舟十三人　明恵上人

高信　顯性上人　神足開基

嘉海　義林房　十無盡院開基

定真　空遍上人　乃便智院開基

靈典　義淵上人　池坊開基

仁辨　玄密上人

仁真　乃便智院弟子

證明淵　善財院弟二傳燈

経辨

高雄

同書三、二九頁ニ十無盡院代々ノ系図ヲ書セリ

高辨――嘉海　義林房、上人ノ付法　建長二、寂、七七

辨清　惠月房　弘安六寂、六〇。

経辨　惠林房、仁真ノ附法　嘉暦元寂、八一

高経　了月房　経辨付法

公辨　林明房　高経ノ付法

了恵――高祐　禪證房　公辨附法

即惠林房經辨ハ血脈上、明恵上人ノ曾孫ナリ、乃便智院第二世仁真ヨリ付法ヲ得テ予於盡院ニ入リテ其ノ三世トナリ、嘉暦元年八十一才ニシテ寂セリ

惠林上人カ高僧ナリシコトハ同書三一三頁ノ記述ニヨリテ明ラカナリ、即同頁ニ永仁三年ノ奥書アル「華嚴法界義鏡」巻下ヲ引用シテ曰ク

高辨、德冠遠近名滿四海、高辨下有善喜海道證、定恵、靈典、圓辨、隆詮、長辨、高信、顯晉、負眞、證定、了辨等也、喜海ノ下有靜海、辨清等、是彼等ノ眉目也、靜海下有經辨等云々

尚同書ハ五頁ヨリ六六頁ニ亘リテ惠林上人四十六歳ノ時ノ記載アリ

此調支分作法ニ就テ上人ノ私案ヲ自記サレタル辛月ハ明瞭ナラザルモ、老筆ト思ヘバ恐ラク弘安正應前後ナルベシ

昭和十二年五月廿九日記

清野謙次

国立国会図書館　タイトル『調支分作法私』　請求記号 WA15-3